



発行日 2011年12月20日 発行人 細川正善

編集責任者 廣澤道秀 編集担当 佐藤慧真

発行所 SOTO禅インターナショナル事務局 〒233-0012 神奈川県横浜市港南区上永谷5-1-3 貞昌院内

Tel. 045-843-8852 Fax. 045-843-8864 URL: <http://www.soto-zen.net/>

郵便振替 00100-6-611195 SOTO禅インターナショナル

Vol.48



9月10日(土)夕刻のゆめ観音アジアフェスティバルにて、宗派を超えた萬燈供養が厳修されました

巻 頭

進一歩から進二歩へ

大本山總持寺顧問 お が さ わ ら り ゅ う げ ん 小笠原隆元 (長野県廣澤寺住職)

平成23年度は正に想定外の事件続発で師走を迎えんとしており、平成どころか変成の年となったといえよう。しかしながら曹洞

宗門にとっては、去る10月4日、東京グランドホテルにて曹洞宗国際センター主催による「国際シンポジウム」が行われ、世界各地からの参集者を含めた数百人が満堂にあふれる、「進一歩」の画期的集会が実現している。

日本に佛教が伝来して千五百年。高祖道元禅師から太祖瑩山禅師による中国禅宗の伝統受持と教化発展により、佛心宗たる曹洞宗門が確立されるようになり、八百年経過して来た。さらに明治維新後に宗門宗侶が国外に雄飛して、樺太・旧満州・中国・台湾・南方諸島からハワイ・北米・南米、さらに欧州へと教線拡大が開始されてから百年余りの歴史的展開の中で、思いがけな

い紆余曲折もあったが、何とか禅佛教とか坐禅のことが知られるようになって来た中での一大慶事であったと思う。特に一昨年、昨年には日本国籍を持たぬ外国人禅僧が欧州・ハワイ・北米地域の国際布教総監に就任して、曹洞禅佛教が国際化するべく「進一歩から進二歩へ」と歩みを始めたことであった。現在国外には4ヵ所の国際布教総監部が存在しているが、世界人口の半分を占めるアジア地域との交流がまことに不十分と言わざるを得ない。望むらくは日本の近隣佛教国や中国、インドの人口大国との佛教・禅的交流が歴史的障害を乗り越えて緊密な関係にさらに進むべく、「進一歩から二歩、三歩」とならん事を切望し、多くの先人達の献身と労苦に対して合掌するのみであります(その昔、30年ほど前、日本宗教学会で「曹洞宗の国際性」と題して発表した事を想起しつつ)。

… 海外レポート① …

2011 ドイツ声明公演報告

S Z I 事務局長 ^{かめ} 亀 ^の 野 ^{てつ} 哲 ^や 也 (神奈川県貞昌院副住職)

ケルン・シュニッツゲン教会博物館にて

サッカーワールドカップでなでしこジャパンが活躍した6月から7月にかけて、曹洞宗僧侶によるドイツ声明公演が開催されました。

公演を行ったのは、埼玉県さいたま市東光寺住職・松本誠諦老師を会長とし、愛知県新城市東泉寺住職・前川睦生老師を事務局長とする『禅一空華龍吟会』（以下、龍吟会）のメンバー22名で、ドイツ3都市で開催されました。

龍吟会は、元覚王山日泰寺僧堂の堂長であり、国内で声明公演の契機となった1974年国立劇場の柿落とし公演で中心的な役割を果たされた前川博邦老師の流れを汲む法式・声明を学ぶ研修団体です。

法式・声明は、師匠から弟子へという対面での教えの伝播が行われるため、宗門内でもさまざまな「流派」があります。その中で、前川博邦老師の声明の流れは、豊橋市の吹霄会、名取市の羯諦会、西春市の庚辰会などに広がっています。

今回公演は、ドイツ人声明研究者のミヒャエラ・ムロス氏の長年の研究活動、および各方面への働きかけが

国際交流基金ケルン文化会館のハインツ・レーゼ氏に届き実現したものです。昨年ドイツ各都市の音楽祭からの招聘を受け、それを実現するべく準備を進めてきました。同時に、文化庁国際芸術交流支援事業にも採択され、日独交流150年の節目の年を飾る文化事業としても位置づけられています。

ドイツ3都市で行われた公演は、それぞれ主催者も会場も異なります。

第1回公演地のヴィッテンブルクでは、劇場での公演となりました。かつての東ドイツに位置し、マルチン・ルターが宗教改革を行った歴史的な街として有名です。また、第2回公演地のシュトゥットガルトは、著名な音楽家が演奏をするモーツァルトホールがあり自動車産業をはじめ近代産業の中心となる大都市です。最終公演地のケルンは、ロマネスク時代から続く伝統的文化が栄える街です。

それぞれの都市において、舞台の設備、広さが異なりますので、臨機応変に進退、差定等を変更し公演本番に備えました。また、仏教に馴染みのない来場者にも理解していただくよう、公演前にはスライドを使ったレク

2011 ドイツ聲明公演

日 時	公 演 名	都 市	会 場	主 催 者
6月30日 17時～	Himmel auf Erden 国際宗教音楽祭	ヴィッテンブルク	フェニックスシアター	Wittenberg Kulture.V.
7月2日 20時～	バーデンヴェルテンベルク州 音楽祭	シュトゥットガルト	リーデルハーレ	州独日協会
7月6日 22時～	ロマネスクの夏2011	ケルン	シュニユツゲン博物館	ケルン市文化庁 西ドイツ放送協会

チャーを行ったり、公演中は差定、経文、解説が詳細に翻訳されたドイツ語の字幕をリアルタイムに流すなど、宗旨や修行が音楽に密接に関っている点を総合的に紹介できるよう心がけました。

特に最終公演地のケルンでは、はるばるデュッセルドルフから総領事も来場され、改めて日本の伝統文化の重要性を知ることとなりました。チケットはあっという間に完売し、会場は当日券を求める方々で溢れるほどでした。

世界に紹介するべき文化は、決してギャルファッションやマンガ、アニメなどだけでは無く、伝統に裏付けられた文化であると実感したものです。

今回の聲明公演には、当初宮城県からの参加も予定されていましたが、東日本大震災のために急遽参加が叶わなくなりました。震災のために、日本ではあまりにも多くの人が影響を受けてしまいました。

日本への支援は、ヨーロッパからも多数寄せられています。独日協会から贈られたTシャツには、ドイツの学生がデザインした日の丸と折鶴、そして Echte Freunde ston zesamme! (本当の友達はずっと側に) と刻まれています。

公演の後半には、震災で命を落とされた多くの方々への慰霊と震災復興への祈りの法要を営み、会場は合掌で包まれました。



独日協会会長さんとTシャツ

溢れんばかりの拍手の音の波は、メンバー全員決して忘れることはないでしょう。

今回の公演は、震災から復旧し復興への道を歩んでいる日本の姿を伝え、寄せられている多くの支援への謝意を伝える機会にもなりました。

末筆ながらドイツ各地では、独日協会の皆様に本当にお世話になりました。多くの方々とのご縁を戴きましたことを感謝いたします。

そして、公演に際し宗務庁教化部国際課様、ヨーロッパ総監部様、ベルリン禅光寺様をはじめ宗門の皆様にも多大なるご協力を戴きました。心より深い感謝と敬意を表し、報告とさせていただきます。

差 定

■歎佛法式

入堂・普同三拝・般若心経・洒水文・散華の偈・讃佛の偈・帰依文・歎佛の偈・佛名・懺悔の文・七佛宝号・普回向・三帰依・退堂

■東日本大震災・世界被災禍慰霊鎮魂法要

古式懺法鉢・入堂・大夜念誦・十佛名・舍利礼文・地藏歎偈・回向・退堂



シュトゥットガルト・モーツァルトホール

… 海外レポート② …

国際礼拝堂 南溟堂動静報告

～秋田新隆老師サイパンより帰国～

S Z I 事務局長 ^{かめ} 亀 ^の 野 ^{てつ} 哲 ^や 也 (神奈川県貞昌院副住職)

"暑い南の島で水も思うように飲めないまま散華した軍人、民間人、原住民、また闘いに明け暮れた相手国の人々…サイパンには慰霊碑は数多く建てられているけれど、どれも野ざらしとなっています。

せめて屋根のついたお堂でゆっくり水を飲んで貰い、ゆっくり供養したい…"

サイパン島一番の繁華街、ガラパンにある砂糖王公園 (Sugar King Park) にある「サイパン国際礼拝堂 (以下、南溟堂)」(Nanmeido: The Saipan International House of Prayer) は、静岡県静岡市・法幢寺前住職 秋田新隆老師が約25年前に発願され、建立のための資金の殆どを負担、さらに戦没関係者、岐阜県仏教会信徒会、故谷耕月老師 (臨済宗正眼僧堂師家)、愛知・静岡県のご寺院方の協力を得て5年の年月を費やし開創された超宗派の寺院です。

建立当時は梅原厚氏 (元マリアナ短大講師)、コンダーニャ師 (スリランカ)、ジョン・ホール師 (ハワイ浄土宗) によって管理されていましたが、無住状態も長く、そのため心無い何者かに本堂のガラスが壊され、仏具の一部 (仏像の光背、獅子吼など) を破壊されてしまいました。

秋田老師は、2009年2月ハワイ・ヒロ大正寺の国際布教師としての任期を終えられたのを機にご夫妻でサイパンに移られました。

SOTO禅インターナショナルでは、2010年、国際布教師OB会を兼ねてサイパン慰霊法要と南溟堂拝登を行っています。(会報43号参照)

秋田老師は、「これからは戦没された方々の、アメリカ人、日本人、現地の方の区別なく、み霊を慰めるために寺を護持することが私の義務であると思う」「訪問者、旅行者、地元住人も、毎日開いている寺に参詣して祈りを捧げてくださいようお願いしたい。私は、生涯このお寺を護持するためにサイパンに居ることを決めた。」とお元気に話されていました。

しかし、秋田新隆老師は10月末に顛倒され左足が不自由になりました。老師は84歳、奥様は78歳になりました

ので、平成23年11月19日を以ってサイパンから帰国されることとなりました。

今後は、前住職地の法幢寺で現住秋田弘隆師を補佐されるとの事であります。

ちょうど今年11月、秋田老師が帰国される直前、東京宗務所主催の移動研修で宗務所役職員、御寺院の皆様方とサイパンに赴く機会を得ました。

研修行程の中で南溟堂拝登およびサイパン島戦死病没者諸精霊、中部太平洋地区戦没者諸精霊、戦役殉難諸精霊への慰霊法要を営み、その後秋田老師よりお話をいただきました。

そのお話の中で、

- ・今後、南溟堂は無住状態になってしまうので、サイパンに住して南溟堂を護持する後継者を求めている。
- ・サイパンのガラパン地区には梅花地区奉詠大会や講習会を開催できる公共のホールが幾つかあり、ホテルも充実しているので是非サイパンを使って欲しい。
- ・サイパンは、日本から一番近い英語圏の島である。日本人補習校の校舎は週一回 (土曜) だけ使っていてそれ以外は空いているので、中高生が短期留学や修学旅行に利用するには最適である。もっと若い日本人にたくさん来て欲しい。今年、上田西高校 (長野県) では修学旅行で220人が拝登されたとのこと。

等々、具体的で切実な願いをたくさんいただきました。

マリアナ諸島の主要4島のうち、「グアム」と「サイパン、テニアン、ロタ」は同じようで全く性格が異なっています。

グアムは自治権のあるアメリカ準州ですが、「サイパン、テニアン、ロタ」は米国主権下における北マリアナ自治政府による内政を行い、外交・防衛等を米国に委ねるという形式をとっています。

従って、入国に関しても「サイパン、テニアン、ロタ」に関しては中国、韓国からもビザ無しで入国が可能でした。

しかし、2009年11月28日より北マリアナ連邦に米国移民法が適用され、2年間の猶予期間を以って、今年11月28

日よりアジア系の移民の状況ががらりと変わる（仕事のない中国、韓国、フィリピン系の方々が帰国せざるを得ない）ことが予想されます。

また、アメリカと同様の入国管理が適用されるようになると、日本を除く多くのアジアの国がサイパン渡航に際しビザが必要になります。

そうすると、サイパンやテニアン観光産業の更なる衰退は免れません。

サイパンは、かつて数万人もの日本人が暮らしており、太平洋戦争最大の激戦地となった島として日本人にとっては忘れられない大切な場所です。そしてマリアナ諸島の住民たちは、日本人の先人から多くのことを学び、多大なる恩恵と教訓を受けたと感じ、日本に対してとても友好的な

感情を持ってくれています。それが故に、かつての日本の残した史跡や戦跡も現地の住民たちによって手厚く維持されています。

移民法が改正された今、まさに日本からの旅行者増加を行う意味のある時期であるといえます。

また、南溟堂は無住になったとはいえ、今後もサイパン市長事務所により管理されることとなっています。

南溟堂の御本尊は慈母観音。左右に梅花観音、阿弥陀如来をお祀りしています。20人ほどが坐ることができる坐禅室もあります。

サイパンは日本から僅か3時間余。お参りの節は、現地1-670-233-2217（浪ノ上さん）に電話連絡して下さいとのこと。

… 海外レポート③ …

書籍紹介&海外寺院探訪
ニース行仏寺 2011.11

S Z I 事務局 ^{うち やま はる こ} 内 山 温 子（静岡県随縁寺寺族）



(写真1)

“Trois Pierres Cinq Fleurs — petit traite du jardin japonais”
by Bertrand Petit, Keiko Yokoyama
EDITIONS ALTERNATIVES

歌川広重、葛飾北斎の作品もふんだんに織り交ぜられた小さな本の中の「日本」。
書道、庭、禅の言葉、国生みの神話
漢字やひらがなというフォルムでしか表せない 言葉の力！

【問い合わせ先】 ニース 行仏寺 ^{ぎょうぶつじ} 住 所 4 bis, avenue Notre Dame, 06000 Nice, FRANCE
TEL. 33-4-9380-8149 FAX. 33-4-9380-8398

このたびは旅の途中、数時間のおつきあいでしたが、かつて北米ミネソタで「ワンボウル・ネットワーク」を主宰されていた岐阜県正宗寺の原田道一老師 (Rev. Doitsu Harada) とのご縁で、行仏寺の坐禅会メンバーでもあり、この本を発行された横山敬子 (Keiko Yokoyama) さんにお会いしに南仏ニースに立ち寄りました。カレンダーや写真集に禅の言葉をつけて紹介されるというのは、欧米ではしょっちゅう店頭にならんでいますが、今回も読むという感覚ではなく、観るテキストだというふうにしたものです (写真1)。

世界宗教とはいえ、仏教徒は総数でいけば実際にはマイノリティといえますが、宗教としてではなく、幅広くアジアの宗教が培ってきた芸術の歴史を大事にしている方が、欧米には多くいます。実際、仏教やヒンズー教はじめ、民族の古代の慣習で使われた素材をインドやアジア全般にわたって展示する「ギメ博物館 (Musée Guimet)」などでも、今も地元の学生たちが仏像や民具をみながら授業をうけたり、仏像を模写するレッスンをうけたりしています。資生堂の香水「ZEN」も、日本のものとは異なるラインで今も空港の

免税店に並んでいます。

そして、ニースでは日本での東日本大震災の際、原発関連で被災地全般にわたって風評被害がおこる前からも、定期的に支援のための話し合いが行われていて、チャリティ・ポスターも街に貼られていました (写真2)。



(写真2)

この日は、お寺の代表でもあるレッシュ雄能師 (Rev. Roland Yuno Rech) や参禅者の方を通じて、日本人同士では話にくいことも、寺族としての個人的な悩みも、世間話の中ではございでしたが解決にむけて瞬時に多くの示唆を与えていただけたことに感謝しております。外国人僧侶の皆様のご活動も、世代をこえてこれからも周囲の方によって長く記憶にとどめられることと思っております。今回は、11月13日の夜坐に参加しました。

合掌

… 国内レポート① …

東日本大震災報告

北アメリカ桑港寺主任国際布教師 ^{たて} ^{でら} ^き ^{こう} 舘 寺 規 弘 (宮城県津龍院副住職)

はじめに、この度の東日本大震災に際し、被災地への物心両面の多大なるお見舞い、そして励ましを下さいましたご縁の方々に、改めて感謝申し上げます。

2011年3月11日、私の故郷である宮城県南三陸町は大地震に伴う巨大津波の直撃を受け、壊滅状態となりました。実家である師寮寺・津龍院も、20メートルはあろうかという大津波に襲われ、本堂、山門、鐘楼堂、檀信徒会館でもある庫裏等は、流失または全壊の被害を受けました。

急いでサンフランシスコを飛び立った私は、震災発生当時東京にいた兄と合流し、大震災発生から6日目にしてようやく南三陸町に入ることが出来ました。東京から出発したのですが、東北自動車道は全面通行止めで、新潟から山形を抜けて仙台に入りました。故郷といっても普段はほとんど通ることのない山沿いの道を抜けて行く途中、全面停電し、携帯電話が不通になっているとはいえ、途中までは普段と変わらない集落の風景に、地震での被害は少なかったのかと、二人で少し安心していました。

しかしながら、津波被害の境界線の地点に達した途端に、二人とも絶句してしまう光景が目の前に広がりました。海岸からの距離でいえばはるか遠いはずの田園地帯が、一面瓦礫の山と化していたのです。見渡す限りの壊れた家や船、無理矢理開いた道路以外はまるで空爆でも受けた後のような惨状に、これでは海沿いのお寺の地区や商店街が広がる地区はどうなっているのかと不安がよぎりました。案の定、商店街は無惨にも全域が流され、お寺が

ある地区も、高台の数軒を残して壊滅の状態でした。海岸線を通るJR気仙沼線の線路は、あらゆる所で土台から崩され、線路は引きちぎられ、駅はといえばその原型を留めてはいませんでした。海岸沿いの国道や県道も土台から崩れ、更にはアスファルトをも剥がされ、とても普通に通れる状態ではありませんでした。

その様な悲惨な状況下でも、両親の無事、実家のある地区の皆さんが全員避難出来ていたことが、不幸中の幸いでした。両親と再会し、お互い涙を流しながら無事を喜び合った時は、言葉では言い表せない安堵感に包まれました。本当に良かった、本当に良かったと、何度も心の中で叫び、あるいは無意識に口に出していました。

しかしながら、その時点での情報でも町全体でいえば、私の同級生やお寺の檀信徒等を含め、すさまじい数の死者及び行方不明者がいるだろうとのことでした。

それからは、崩れた寺院建物の除去、瓦礫の撤去、かろうじて残った建物の清掃作業にひたすら従事しました。僧侶であるが故に、時には遠くの町で茶毘に付されるご遺体のための読経も勤めました。

ありがたいことに、津波で家を流され、避難所暮らしを強いられている檀家さん達も、お寺の復旧作業、瓦礫撤去を手伝って下さいました。自分たちの生活の前に、まずお寺の復旧を優先してくれた地区の皆さんには本当に感謝してもしきれません。

さて復旧作業といっても、電気や水道などの全てのライフラインが破壊され、寸断されていたので、最初のうちは極度の水不足、燃料不足に悩まされました。雨どいを切っ



被災した津龍院の山門と本堂



同客殿



て桶を置き、雨水を溜めて掃除用の水に使いました。まだまだ寒い時期だったので、表面の水を碎きながら雑巾代わりのTシャツやタオルを絞って掃除をしました。毎日頭の上を救援のヘリコプターがひっきりなしに飛び、丘から見える湾には、本来養殖のイカダがたくさんあるべき場所に自衛隊の護衛艦が停泊し、その廻りには避難して無事だった10隻ほどの漁船が、帰る港もなく留まっていました。お寺の近くの海岸には毎日、行方不明者捜索のヘリコプターが低空飛行で巡回をしていました。そして、毎日起きる大小の余震にも注意を払わねばなりませんでした。

ともすれば現実を見失ってしまいそうな光景が広がる中で、両親がまたこの寺に住めるようになる事だけを考えるようにしながら目の前の作業に取り組みました。

毎朝、夜明けとともに起きては地区の灌漑用水の井戸へ水を汲みに行き、外の釜戸で火をおこしては湯を沸かすという避難生活のなかで、少ない水を如何に効率よく使うかが大切なことでした。私はその時に師匠とも話しましたが、恥ずかしながら初めて本当の意味での「勺底の一残水」という道元禅師の教えを理解出来た気がしました。

6月に入り、津龍院では電気が復旧し、ポンプによる井戸水の汲み上げが出来るようになりました。上下水道の完全復旧はまだまだ先の状況でしたが、まず以て最低限のライフラインの復旧がなされました。かろうじて屋根と柱のみ残った庫裏建物は、2ヵ月強の改装工事の後、崩



壊した本堂から奇跡的に搬出できたご本尊様を移し、仮本堂として葬儀や法事等の仏事を勤めることが出来るまでになりました。家族の住居も、清掃作業と改装工事のおかげで、最低限の生活が出来るまでに復旧しました。

そして8月には、震災犠牲者を含め、2011年の初盆供養会を修行することが出来ました。仮本堂であるため、ただでさえ狭く暑い中に沢山のご遺族がお参りする状況ではありましたが、何とか皆様と一緒に供養のお勤めが出来たことに、安堵の感で一杯でした。

津龍院を含む南三陸町において、また東北全体でも、そして被災地全体においては、これからの復興に向けては、まだまだ沢山の難関が待ちかまえており、それは長い道のりになることでしょう。

その様な状況下ではありますが、私が直接現地で見、聞いて、そして共に汗を流してきたことから考えるに、地域の多くの方々は皆自分の故郷を愛し、そして復興してこうという気持ちで溢れています。この気概を持つ多くの人達が一丸となれば、どんなに時間がかかろうとも必ず美しい南三陸、美しい東北、そして美しい日本は再生するはずで。

皆様におかれましては、ほんの少力で構いませんので、長い目でこの復興に向けての足取りを支え続けて下さいますようお願いいたしまして、まずは報告に代えさせていただきます。

合掌



更地になった境内



被災直後の客殿



改修後の客殿

第13回ゆめ観音アジアフェスティバル in 大船

つながる ひろがる アジアのねがい

9月10日(土) 11時から、恒例のゆめ観音アジアフェスティバルが、大船観音寺とSOTO禅インターナショナルの主催により開催されました。今年はSZIブースでも東日本大震災の復興を支援するための品物(玉こんにゃく、負けないタオル、被災地の学校へ楽器を送るための「キャンドルプロジェクト」によるキャンドル等)の販売をいたしました。今年度の義捐金は以下になりましたのでご報告させていただきます。

- ・入場料の一部より 189,000円
(財かながわ国際交流財団に寄託しました)
- ・SZIブースの売上金 64,308円
(宮城県津龍院を通じ直接被災地にお届けしました)
- ・SZIブースのキャンドル売上金 8,000円
(社新潟市ユネスコ協会を通じ「キャンドルプロジェクト」に寄付しました)

以下に、当日読み上げられましたSZI会長による「平和宣言」をご紹介します。

平和宣言

「核兵器もない／戦争もない／平和な世界を」これは大船観音にある平和の碑に刻まれている長洲元神奈川県知事の言葉です。

世界中すべての人が、等しく幸せな平和の日々を送ることを願っています。しかし、皆が幸せな平和な世界を願いながらも、それぞれが、それぞれの正当を主張し、武力を持ってぶつかり合う時、お年寄りや子どもたちのような弱い多くの人々が犠牲になります。友を失い、愛する人を失って、かけがえの無い人間の一生が無惨に踏みじられてしまいます。このような恐ろしいことが今、世界中で起こっています。

大船の丘から街を見守る、この白衣観音像は、1929年、世界の恒久平和を祈願して建設がはじまりました。

当時は周辺諸国に進出する日本軍を称え、戦争を正当化する世の風潮に満ちあふれていました。大船観音の建設趣意にもその心が少なからず含まれていました。

しかし、建設趣意書の中には日本と中国との親善を願い、平等の大慈悲心に基き日本軍の英霊と共に同じく

「キャンドルプロジェクト」について

新潟市にある音楽事務所(株)7thプランニングとキャンドル教室アトリエ インフィニティが、(社)新潟市ユネスコ協会の協力のもと行っている東日本大震災の復興支援プロジェクトです。使用済みのロウソクをリメイクして、キャンドルを作り義援金を募って被災地の中学校に楽器を送ろうというプロジェクトです。SZIでは使用済みロウソクを送る支援も行っていますが、ご協力いただける方は、以下まで(元払いにて)お送りいただきますようお願いいたします。

〒950-0205

新潟県新潟市江南区沢海3-3-18 大榮寺専門僧堂内

(社)新潟市ユネスコ協会事務局

電話 025-385-2032

中国軍の戦艦をも祀るという発願も見られます。

大船観音の建設途中で日本は第二次世界大戦に突入し、工事は中断されました。

戦後になっても建設半ばで放置されてしまい、大船観音が完成したのは戦後15年、今から丁度51年前のことです。

敗戦を経て建立された大船観音建立の意義は、戦前戦中に亘って時の政治権力に荷担迎合し、アジア地域の人びとの人権を侵害し、民族の誇りと尊厳を損なった歴史的事実を反省し、アジア各国へ与えた数々の過ちを繰り返してはいけません。今度こそ、観音菩薩の慈悲によって平和を祈願し、世界から戦争を無くすことを誓うことであると考えます。

そして、ある一つの思想が、たとえ、美しい装いをもち、どのように完璧な理論で武装しようとも、それが他の尊厳を侵害し、他との共生を否定するならば、我々は、そのような思想と信仰を拒否する道を選ぶことを表明します。

平和は、政治的、経済的、軍事上の契約だけによって保障されるものではありません。最終的には人々の一致した誠実なゆるぎない取り決めによって築かれるものです。年齢、性別、社会的地位、宗教的帰属、または文化的背景の違いを超えて、私達一人ひとりが平和な世界を創ることを求められています。

平和は、私たちの行動、態度、日常の行為を通してのみ達成できます。

平和はすべての人が分かち合う、普遍的で私たちに共通する人間性に不可欠なものであることを認識し、私たちはそれを行動に移していくことを誓います。

今年3月11日に東日本大震災が発生致しました。この未曾有の大震災は、多くの人々の命と平穏な日常の全てを奪い、その惨状は筆舌に尽くし難く心痛む出来事でした。震災から明日で丁度半年を迎えます。ここに、この震災で亡くなられた多くの方々と、更にこの度の和歌山県を中心とした台風12号の被害に遭われ、亡くなられた方に対し心よりご冥福をお祈り申し上げます。

そして、私たちは一日も早い復興を願いながら、被災地の方々の支援を続けて参ります。

しかし、この大震災では地震津波の被害に加え、世界の「福島」となった東京電力福島原子力発電所の事故が起きました。

被災地の方々は、地震と津波・原発事故と二重三重の避難生活を強いられ、更に風評被害の実害が起きている福島の今。私自身もこの大震災で被災した福島県に住んでおり、今なお収束の見通しも立たない中、放射線の脅威に不安な日々を送っております。

この原発事故で原子力発電の安全神話は根底から崩れ、避難地域から避難して来た多くの方々はもう家には帰れないと口々にされています。

我々は、その核エネルギーの恩恵を受けており、電力は現代の社会・生活には欠かせないものとなっておりますが、核爆弾でも原子力発電でも、核そのものの危険性・脅威は変わらなく、改めて「核と人類の共存」について考えさせられております。

今年、広島原爆記念日に、被曝された方のお一人が、被曝者として未だ放射能の脅威から逃れることが出来ない日々を過ごし、この66年間二度と同じ過ちを繰り返さ

ないように核兵器廃絶を訴えてきた。しかし、この3月に起きた大震災で福島原発事故による放射線被曝の脅威は同じであり、核に対する認識を改めたとコメントしていたことが大変印象深かった。

日本は、唯一の原子爆弾の被曝国であり、また、原発事故の被害者である我々は改めて、核兵器・核エネルギーに対する認識を新たにすることが必要だと考えます。

「一つの欲望が新たな欲望を生む」制御できないものに対し、求めて止まない己が心を改め、核兵器、核エネルギーに依存しない平穏な世界を願っております。

そして、世界の中では今以て、戦争・テロの報復が繰り返されております。

お釈迦さまは「怨みを持って怨みに報ぜば、怨みやまず。徳を持って怨みに報ぜば、怨みすなわち尽く。」と説かれました。

ここ大船観音の境内には、「原爆の火」や「戦没者慰霊碑」等、平和の祈りが込められたモニュメントが多く立ち並んでいます。

核兵器もない、戦争もない、核に依存しない平和な世界をめざし、慈悲の原点に立ち返り、平和・自然共存の実現に向け全力を尽くしていくことを、ここに宣言いたします。

戦後66年、大船観音建立半世紀から新たな第一歩、第13回を迎える「ゆめ観音アジアフェスティバル」のこの大船の地からアジアに向けて、そして、全世界に向けて、人権の尊重と平和な暮らしが共有され安心して暮らせるよう、ここに平和のメッセージを発信いたし、開会とします。

平成23年9月10日 ゆめ観音実行委員会

SOTO禅インターナショナル会長 細川正善



曹洞宗国際センター主催 「国際シンポジウム」に参加して

S Z I 事務局 佐^さ藤^{とう}慧^え真^{しん}（新潟県興源寺徒弟）

国際シンポジウム テーマ「進一歩 未来への道をひらく曹洞禅」

“Advance One Step Further – Soto Zen Opens The Way To The Future –”

日 時	2011年10月4日(火) 13時より	
会 場	東京グランドホテル	
内 容	世界平和祈念大法要	(導師：佐々木孝一宗務総長)
	基調講演	(上田紀行氏・東京工業大学大学院社会理工学研究科准教授)
	国際布教プレゼンテーション	(各国際布教総監)
	パネルディスカッション	(各国際布教総監、上田紀行氏、司会：藤田一照師)
	国際共同宣言	(釜田隆文教化部長)

曹洞宗国際センター主催の国際シンポジウムに参加させていただきましたので、以下、感想を述べさせていただきます。

【世界の中心(つまりここ)で禅を叫ぶ?】

上田紀行氏が基調講演で提唱されていたのは、グローバル化の中で、もはや日本に中心のあるもの(曹洞禅)を世界に広げるという発想は成り立たなくなり、世界各地にそれぞれ中心があるのであり、そこから学べきことがある時代になっているのではないかということでした。

また、仏教は好きだがお寺はきらいで僧侶には厳しい目を持つ現代の日本人や、高齢者は物理的に孤独若者は群集の中の孤独(「誰も分かってくれない」)を感じている“無縁社会”といわれる世相を挙げ、そのような中で、「家の宗教」が個人の宗教的欲求をどこまで満たせるのか、またコミュニティーをどう支えていくのかという社会的な意味が問われていました。はたして曹洞宗の国際布教からこれらの問いに対する答えが見えて来るのでしょうか。

【それぞれの中心(各総監部)からのプレゼンテーション】

続いてのプレゼンテーションでは、各総監が現況を紹介して下さいました。ハワイ総監部の駒形宗彦総監は、サトウキビ畑の契約農民としての移民の時代から現代にまで続いているハワイ寺院の歴史と檀信徒活動の現況を。ルメー大岳北米総監は、葬儀・法要・年中行事・日本文化の継承などを主とする日系寺院と、後に拡大した

禅センターの存在を紹介し、日系人と禅を求めるアメリカ人の調和が北米のテーマであると語りました。采川道昭南米総監は、日系移民の努力によって寺院が発展してきた歴史、またやはり禅センターほか100ほどの坐禅のグループが出来ているとの現況を報告。フォルザーニ慈相ヨーロッパ総監は、弟子丸泰仙老師の布教と、老師の遷化後静かに禅がヨーロッパに広がっていき、外国人僧侶が現在約300人となっている状況を紹介し、また植木鉢の喩えをもって「仏道はそれぞれのところと生活の中に育っていくもの」として、ヨーロッパという新しい環境に、教えを持ち込むのではなく植え替えていく必要性について語りました。

国際布教と一口にいても開教からすでに108年という時間が流れ、国際布教師の数は100人を超え、外国籍の僧侶は約600人を超えているとのこと。それぞれ限られた時間内でのプレゼンテーションではありましたが、この年月の間に、各地での布教の特色がそれぞれの色身を濃くして発展して来ている状況が伺えました。

【“進一歩”の次の一歩とは? パネルディスカッションから】

国際センター所長・藤田一照師の司会によるパネルディスカッションには各総監と上田氏が参加。曹洞禅の教えは普遍性を持っているが、しかしそっくりそのまま海外に持ち出したのではここまでは広がらなかった。「変えてもいいもの、悪いものとは何だろう?」。また、北米やハワイでの日系寺院はメンバーの減少も見られているが(南米では檀信徒数は増加の傾向にあり、非日系僧侶の数もねずみ算的に増えているのだそうですが)、カウンター

カルチャーの時代とは異なる、「“個のスピリチュアリティの追求が顕著”で、“他の共同体に慈悲の眼が弱い”今という時代の布教活動の展開や課題をどうみるか」という内容のディスカッションが行われました。ここで見てきたのは、「地域社会の中で“行動する宗教”としての実践の模索」と、「精神的な糧がますます強く求められている世界に共通した傾向」です。そして、国際布教が今必要としているのは、坐禅の仕方の指導だけではなく、禅に関心を持つ人々のスピリチュアルな知的欲求に答える資質と英語力とを合わせ持つ布教師の派遣であり、そ

して僧侶を育成するための現地僧堂の創立であるということでした。

国際布教の“進歩”について、采川総監が「仏陀の教えは、各文化の中で完熟する」、「異なる文化の中で、“即心是仏”を伝えていくことが使命であり、異なる文化の中で変わらない教えの側面を伝えていくことが次の一歩である」と話していたのがここに残りましたが、日本の若者文化の変遷の実態を思うと、これは国際布教だけの話ではないなと課題を与えられたような気がいたしました。

SOTO 禅インターナショナル主催懇親会

シンポジウム終了後、SOTO 禅インターナショナル主催の懇親会が開催されました。この会は、小笠原隆元老師の總持寺顧問就任のお祝いも兼ねて行われたものです。駒形ハワイ総監夫妻、采川南アメリカ総監夫妻、ルメー北アメリカ総監ほか、穀蔵先生夫妻、大山先生（マウイ満徳寺）、館寺先生夫妻（桑港寺）、秋葉元北アメリカ総監、南原先生（国際センター）、鈴木老師（永平寺後堂）、大谷哲夫老師他、たくさんの皆様にご参加いただきました。懇親会は、国際布教の深さを共有した人たちの独特な味わいのあるものとなっていたように思います。皆様の歩んで来られたその歴史は、これから編纂されるSZIの『曹洞宗海外日系

寺院史』で改めて学ばせていただこうと思います。

さて、実は今回のシンポジウムでは、一昨年行われた南米総監部の50周年記念行事で私がお世話になった当時の総監部のスタッフらに再会することが出来ました。ブラジルにはほんの10日ほどの滞在であつたにもかかわらず、大変密度の濃い時間を過ごさせていただきましたので、皆様のお顔を拝見したら懐かしくてたまりませんでした。

海の向こうで、今も法灯を灯し続けている人たちがいる。その一つひとつの「進歩」が世界中につながっていきます。最後に国際布教師の皆様の法身堅固をここから祈念させていただきたいと思います。



… 国内レポート④ …

海外開教師・国際布教師物故者追悼法要 およびU.S.A.天平山禅堂プロジェクト発足式 開催

S Z I 副会長 あさ い せん りょう 浅井 宣亮 (愛知県地藏寺住職)

大菩薩禅堂「瑞岳院」開創30周年記念として、2011年11月17日午後2時より海外開教師・国際布教師物故者追悼法要およびUSA天平山禅堂プロジェクト発足式が開催されました。

瑞岳院は丹羽廉芳禅師を御開山として、1978年山梨県大月市に創建され、海外からの参禅も多い禅堂です。現在、瑞岳院入口の龍門前は山梨県による砂防ダムの工事中であり、また吉祥院（神奈川県湯河原）の兼務禅堂でもあるため、今回の式典は吉祥院檜ホールにおいて行われました。

SZ I 会長細川正善による開式の辞の後、大本山永平寺副貫首南澤道人老師を大導師として瑞岳院開山丹羽廉芳禅師報恩供養 海外開教師・国際布教師物故者追悼法要が厳修されました。その後、副貫首老師そして曹洞宗宗務庁教化部長釜田隆文老師の御挨拶を頂きました。

カリフォルニア州に建立予定のUSA天平山禅堂プロジェクトは曹洞宗宗務庁の協賛を得たものであり、山門、仏殿、僧堂、衆寮、庫院、東司、浴司という一伽藍を整えたアメリカ合衆国最初の曹洞宗国際禅堂です。両老師は御挨拶において、アメリカにおける日本式の国際禅堂の必要性や重要性を述べられました。式典はその後、吉祥院28世尖秀雄老師の解説によるスライド上映へ移り、曹洞宗国際布教の歴史そして瑞岳院30年の歩みを振り返りました。尖老師は日本において天平山禅堂建立に御尽力されており、天平山禅堂伽藍に関しても詳しい説明がありました。

そして続いて、世界遺産「春日大社」式年造替御柱《天平山禅堂建立佛殿丸柱披露》がなされました。檜ホール中央に置かれた太い丸柱は、アメリカにおける天平山禅堂の偉容を想像させるものでした。SZ IとしてもUSA天平山禅堂プロジェクトに微力ながら協力していきたいと考えております。

引き続き、バイオリン（森彩香）・チェロ（内田佳宏）・チェンバロ（谷合千文）による三重奏が奉納演奏され、檜ホールの良い音響の中、参加者一同が優しい音色に耳を傾けました。

演奏後、天平山禅堂プロジェクト発起人であるアメリカ好人庵禅堂堂頭、秋葉玄吾前北米総監による謝辞がありました。秋葉老師は謝辞の中で、天平山禅堂はアメリカにおいて非営利団体の認定を受けて20年間活動を続

けてきた好人庵禅堂を母体として建立を図り、建立後は天平山禅堂を非営利宗教法人として登記し、独立した法人として活動を行うこと。北アメリカ国際布教総監部、国際センターを置き、北アメリカにおける宗門の布教教化の拠点と成り得るという天平山禅堂の可能性。そして、多くの人達の御協力がなければここまで辿り着くことはできなかったとして、御礼の言葉を述べられました。



法要は、南澤道人老師を大導師として行われた



吉祥院檜ホールならではのコンサートの様子



謝辞を述べる秋葉玄吾前北米総監

アメリカ合衆国カリフォルニア州
【天平山禪堂プロジェクト】

趣意書

一仏両祖のみ教えに基づく日本の曹洞禪は国際的な規模でひたひたと着実に弘まっています。日本の国で約800年の間堅実に培ってきた「正伝の仏法」は、現在「地球の生命」救済思想活動の基本理念を保持していると理解され、欧米の一般の人々にも多大な関心が寄せられています。

「只管打坐」の実践は盛んに各地で履修されています。「JustSitting（黙照の禪）」は、私たちに、一個の生命体は地球・宇宙の永遠の生命と連鎖した真実の存在であることを明晰に覚醒させる働きがあり、人間活動はどうあるべきかの自覚をうながすものと捉えられています。21世紀の高度な文明社会に生きる私たちにとって重要な「社会参加の仏教」を推進する根本の、単純・明晰な「坐」への、世界の一般の人々の信頼感を、私たち曹洞宗僧侶は尊重しなくてはなりません。この重大な価値観を有する曹洞禪を世界へ敷布する精進を尽くすことは、大いなる日本曹洞宗の使命であると存じます。

現在、世界各地には所謂「禪センター」と言われる寺院が陸続と設立され、宗旨を敷布する活動を盛んにおこなっている曹洞宗僧侶は約600名の多きに達しています。現在もお曹洞宗僧侶は増え続けています。

これも、ひとえに先人開教師（現 国際布教師）各師の精魂の賜物であると存じます。今、この時勢に、海外における曹洞宗国際布教にとって最も重要な課題は増大し続ける僧侶の育成をいかにするかという点にあると存じます。

一仏両祖の正伝の仏法、禪戒一如、修証不二の妙諦を誤りなく伝えることが肝要であります。仏祖正伝の仏法を履修する（只管打坐、威儀即仏法の仏作仏行）、伝統的な禅院様式に則った道場が海外の地における宗侶育成にはどうしても必要不可欠な施設であると存じます。それは長年の国際布教に携わった痛切な実感であります。

この度、かつて国際布教師の方々の念願でありました山門、仏殿、僧堂、衆寮、庫院、東司、浴司という大伽藍を整えた天平山禪堂を、アメリカ合衆国・カリフォルニア州の地に建立する運びとなりました。

アメリカの地に、日本で約800年の間培ってきた曹洞禪の修行形態を示し続ける禅院を設置することは、日本曹洞禪の大いなる誇りであり、人類社会へ文化的な多大な貢献をなすものと信じます。

何卒、皆様方の暖かいご理解、ご法愛を賜り、長年の先達老師の方々の想いを達成できますよう、ご助力の程、伏してお願い申し上げます。

天平山禪堂プロジェクト事業概略

1. 概要

建立地：カリフォルニア州サンフランシスコ市より車で2時間にある、12平方キロメートルの土地の所有者と交渉中

伽藍（法堂、僧堂、東室（衆寮）、庫院、山門）は日本の伝統寺院様式

(1) 法堂	間口	12間	奥行	9間
(2) 僧堂	間口	14間	奥行	11間（四版単）
(3) 東室	間口	21間	奥行	7間
(4) 庫院	間口	12間	奥行	7間
(5) 山門	間口	9間	奥行	3.5間

2. 修行について

- ・曹洞宗の伝統的修行形態を遵守する
- ・法式、進退作法、鳴らし物については、諸清規に則る
- ・只管打坐、修証一如、威儀即仏法、仏作仏行を標榜する
- ・外国人僧侶だけでなく、日本人僧侶の受け入れも行う



・曹洞宗の専門僧堂としての認可を目指す

3. 運営について

アメリカにおいて非営利団体の認定を受けて20年間活動を続けてきた好人庵禅堂を母体として建立を図る。

建立後は天平山禅堂を非営利宗教法人として登記し、独立した法人として活動を行う。

北アメリカ国際布教総監部、国際センターを置き、北アメリカにおける宗門の布教教化の拠点と成り得る。

4. 事業予定

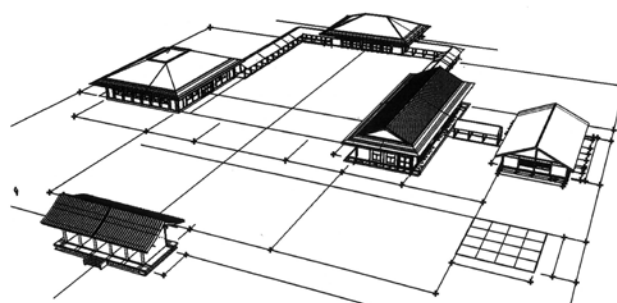
平成24年	4月末	材木の切り込みが終了し、現地へ輸送
平成25年	4月	上棟式
平成26年	10月	落慶法要
平成27年	4月	結制安居を修行する

U.S.A.天平山禪堂プロジェクト

起工スタッフ

設計監督	箱根建設 紺野一級建築士
施工	山本建築 及び 檜ホール建築部 棟梁 肥後正道
施工	- U.S.A.S.E Paul Discoe
瓦屋	淡路瓦 登里瓦店 日本いぶし瓦組合 本瓦店 理事長 登里康夫 淡路瓦 緑窯業 西淡第一工場長
材木	神奈川森林組合 奈良吉野桜井森林組合 木曾檜森林組合
石材協力	須藤石材株式会社
彫刻	儒教美術協会会員 瀬戸博文 市毛誠二 檜寄木作りご本尊 釈迦牟尼佛立像 2m50cm（台座含む）
襖	16羅漢 現7体完成 楠材
絵	熱海市在住 日本画家 吉田多最
金物造	湯河原町 深沢鉄工
建具	湯河原町 小澤建具店
CGグラフィック	U.S.A.ロサンゼルスIDグループ 木田

2011年11月17日 発足式



『曹洞宗海外寺院史』進捗状況について

S Z I 事務局 ^{すが}菅 ^{わら}原 ^{けん}研 ^{しゅう}州 (宮城県城国寺副住職)

既に宗務庁教化部国際課、そして国際布教師、元国際布教師、そして寺族の方々等、多くの皆さまにご協力をいただいている『曹洞宗海外日系寺院史』ですが、現在、鋭意編集集中であります。原稿の依頼は既に済み、徐々に提出をいただいている最中ではありますが、中間報告を申し上げます。

今年も後半に入ってから、本件に関する編集会議の数を増やし、具体的な作業に入っておりますが、我々の規模の団体では、手に余る内容の豊富さでありますので、今後、更なる編集努力が求められることはいうまでもありません。

また、今回の編集にあたって、幾つかの基本方針なども決めましたので、ご報告いたします。

1：資料収集について

既報の通り、我々は各海外寺院や総監部などで刊行した諸資料（『○○寺□□年史』の類）を集め、それを必要に応じて編集部で共有しております。これらの資料については、オーラルヒストリーを文章に起こした形の場合が多く、信頼性の問題などを抱えますが、各寺院の実態を最も色濃く示す内容であり、また、僧侶側からの視点だけではなく、各々の寺院護持に努める寺族・メンバーからの視点がありますので、状況を知るためにも、これまで以上に内容の詳細なる分析に勤めなくてはならないといえます。

2：文責について

現在、多くの方々から原稿をいただいているところですが、当然にそれぞれの立場や視点で書かれていますので、内容等にばらつきがあります。結果、一冊の本とし

ては、まとまりがないという状況にもなりますので、今回は、最終的に編集部で原稿をまとめ、元原稿の執筆者については、執筆協力者としてお名前を出ささせていただくことにしました。これは、次の「3」にも関わることですが、国際布教の歴史について述べる時、我々はどうしても、先の大戦に至る諸問題から惹起される人権侵害への重大な配慮をせざるを得ません。その混乱を最低限にするために、編集部で最後の稿を編むということです。

3：人権問題について

どうしても、国際布教の歴史に触れるとき、多くの方が、宗務庁が刊行し、戦争協力や各布教先での人権問題等、様々な事柄が指摘され、結果回収・絶版となった『曹洞宗海外開教伝道史』について想いをめぐらすことと存じます。無論、同著の反省、合わせて、宗門が東アジアで行った布教活動について、その方法や内容が反省・懺悔されねばならないことはいうまでもないことです。

ただ、一方でそれらアジアでの布教伝道とは密接に関わりつつも、独自に展開した現在のハワイ・北米・南米・欧州、他の地域での海外寺院は厳然と存在しています。その時、我々はその事実を客観的に論じつつ、その上でアジアの布教について触れなくてはならないときには内容を精査し、必要に応じて反省し表明すべきであると考えています。

4：略年表について

先の「3」にも関わることですが、特に、宗門が行ってきた国際布教の全体像を把握するためにも、略年表の整備が必要だと思っております。宗門の場合には、『宗制』や『布達』などで、国際布教への関わり方、あるいは、海外開教師（現：国際布教師）の任命状況などから、様子を具体的に知ることが出来ます。それらを踏まえつつ、しかし、国際布教は制度が後から追いかけることも珍しくないため、「1」で指摘した多くの資料等も併せて見ながら、実態の把握に努めたいと思っております。

これらのことをご理解いただきまして、会員の皆さまにおかれましては、同事業へのますますのご協力をお願いいたします。



SZI express

会費納入者・賛助金納入者名簿

2011年7月21日～2011年12月18日まで

ありがとうございます。
大切にに使わせていただきます。

■ 会費納入者ご芳名

2011/7/21 ～ 2011/12/18

(順不同・敬称略)

埼玉県 東栄寺
静岡県 傳心寺
福島県 石雲寺
山形県 般若寺
静岡県 重林寺
山形県 持地院

静岡県 恵倫寺
福島県 梅宗寺
山形県 輪王寺
宮城県 通大寺
静岡県 延命寺
東京都 土田由美子
静岡県 大昌寺

■ 賛助金納入者ご芳名

2011/7/21 ～ 2011/12/18

(順不同・敬称略)

福島県 石雲寺
山形県 持地院

■ 塔婆供養で植林支援協賛者ご芳名

2011/7/21 ～ 2011/12/18

(順不同・敬称略)

福島県 石雲寺
山形県 持地院
神奈川県 鈴木友子
神奈川県 大蔵寺
長崎県 妙本寺
岐阜県 長徳院

東京都 西照寺
神奈川県 全竜寺

植林累計 325件 苗木 98,041本分

動 静 報 告

2011年8月19日～2011年12月18日

- 8月19日 会報47号発送作業 (貞昌院)
 - 9月10日 第13回大船ゆめ観音アジアフェスティバル共催 (大船観音寺)
 - 9月30日 『曹洞宗海外日系寺院史』編纂会議 (檀信徒会館)
 - 10月4日 『曹洞宗海外日系寺院史』編纂会議、国際シンポジウム参加 (檀信徒会館)
 - OB懇親会 (明華楼 本館)
 - 10月28日 『曹洞宗海外日系寺院史』編纂会議 (檀信徒会館)
 - 11月9日 『曹洞宗海外日系寺院史』編纂会議 (檀信徒会館)
 - 11月17日 瑞岳院30周年、天平山禅堂発足式参加 (吉祥院樟ホール)
 - 11月27日 会報編集会議、役員会、『曹洞宗海外日系寺院史』編纂会議 (檀信徒会館)
 - 12月下旬 塔婆供養で植林支援金寄託 (GNC事務局)
 - 12月18日 まけないタオルコンサート共催 (檀信徒会館)
- なお、随時インターネットで役員会を開催いたしております。

編・集・後・記

国際シンポジウムの日、交差点の向こう側にいる外国人の尼僧さん二人の姿が目に入りました。向こうも私に気づき、足を止めてニッコリ。横断歩道を渡って合流し、初対面であるにもかかわらず、ごく自然に一緒にシンポジウムに向かいました。二人はイタリアから来たそうで、新潟からやって来た田舎っぺの私は、「は～、バリコレのモデルみたいな人が着ると、同じ法衣もデザイナーズコレクションみたいだな」などと思ったりしていました。そしてこの成り行きに、「インターナショナルとは、垣根を越えることではなく、垣根が始めからないことに気付くことなんだ」と改めて実感していたのでありました。(慧真九拝)

来年も継続します！

塔婆供養で植林支援

1本の塔婆供養で、1本の樹木が育ちます



SOTO禅インターナショナルは一昨年度、創立15周年の記念事業として「塔婆で植林」事業を企画しました。この事業には全国から多くの御寺院様のご協力をいただき、2010年までには植林支援金として累計150万円(苗木7万5千本分)をGNC Japanへ寄付しました。

GNC Japan (Global Network for Coexistence) は「出会い」そして「人と人との信頼関係に支えられたつながり」をモットーに、今地球上で人類が直面している多くの課題に対応すべく、1995年に結成されたNPO法人です。法人の設立当初にモンゴルで起きた大火災をきっかけにモンゴルでの植林事業が始まりました(GNC Japanについては、これまでの会報に紹介がありますので、ご覧ください)。

モンゴルといえば草原地帯が想像されがちですが、「塔婆供養で植林支援」によって集められた支援金はモンゴルの北部、ロシアとの国境に近い地域の植林にあてられます。この

地域の長年にわたる不法伐採や火災、温暖化の影響による森林の危機は、地球規模の環境問題にもつながるものであり、遠く離れた地に住む私たちと決して無関係の問題ではないのです。

「塔婆供養で植林支援」の仕組みは明瞭です。御寺院様で建立される卒塔婆に貼るシールを、卒塔婆1本につき1枚30円でお買い上げいただきます。これにより、卒塔婆1本につき(シール1枚につき)1本の苗木が植林されます。

2009年6月にはSZIスタッフ有志により現地における植林ツアーが行なわれました。SZIでは2012年度もこの事業を継続して行います。皆様方のご協力をお願いいたします。



塔婆供養で植林支援のシール。
1枚ごとにナンバーが入ります

2012年 SOTO 禅インターナショナル 総会・講演会のお知らせ

SOTO 禅インターナショナルでは、下記のとおり定例総会および講演会を開催いたします。一般の方の参加も歓迎いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております(参加は無料ですが、事前申し込みが必要です)。

●開催日 2012年2月16日(木)

●会場 東京グランドホテル 3階 桜の間

JR 浜松町 徒歩15分／都営三田線 芝公園 徒歩1分

●日程 13:30 定例総会(会員のみ)

15:00 講演会・第1部(どなたでも参加出来ます)

演題 「北アメリカ天平山禅堂プロジェクト」

講師／ 尖 秀雄老師 (神奈川県吉祥院)

15:20 講演会・第2部(どなたでも参加出来ます)

演題 「スティーブ・ジョブズと北アメリカの禅」

講師／ 秋葉玄吾老師 (前・北アメリカ国際布教総監)

コーディネーター／ 田宮隆児 (SOTO 禅インターナショナル副会長)

17:00 懇親会(※懇親会の場所は参加者に追ってご連絡します)



秋葉玄吾老師



(CC)Matt Yohe

惜しまれつつ急逝されたアップル社の前最高経営責任者、スティーブ・ジョブズ氏は曹洞宗の僧侶と深い親交があり、禅の実践者でもありました。

2012年のSOTO 禅インターナショナル講演会は、ジョブズ氏と特に親しかった故知野(乙川) 弘文老師の同僚であった前・北アメリカ国際布教総監 秋葉玄吾老師を講師としてお迎えし、知野老師とジョブズ氏との交流の様子や、禅の教えがジョブズ氏にどのような影響をもたらしたか、そして、北アメリカにどのように禅が広がり根付いているかについて御講演いただきます。また、プレ講演会として、北アメリカにおける禅の確固たる拠点となることを目指す天平山禅堂建設についての発足報告を行います。

定員／200名 会費／無料(懇親会参加者のみ実費5,000円) 締切／2012年1月末日

▶お申し込み方法

【一般の方】 ご住所、氏名(参加者のお名前)、連絡先電話番号と「SZI講演会希望」と明記の上、はがき(〒233-0012 横浜市港南区上永谷5-1-3 SOTO 禅インターナショナル事務局宛て)かFAX(045-843-8864)にて。

【SZI会員の方】 会報に同封されている葉書にご記入の上、事務局までご返信ください。

CONTENTS

▶巻頭 進一步から進二歩へ	大本山總持寺顧問 小笠原隆元	1
▶海外レポート		
① 2011ドイツ聲明公演報告	SZI事務局長 亀野 哲也	2
② 国際礼拝堂 南涅槃堂動静報告 ～秋田新隆老師サイパンより帰国～	SZI事務局長 亀野 哲也	4
③ 書籍紹介&海外寺院探訪 ニース行仏寺 2011.11	SZI事務局 内山 温子	5
▶国内レポート		
① 東日本大震災報告	北アメリカ桑港寺主任国際布教師 館寺 規弘	6
② 第13回ゆめ観音アジアフェスティバル in 大船 つながる ひろがる アジアのねがい		8
③ 曹洞宗国際センター主催「国際シンポジウム」に参加して	SZI事務局 佐藤 慧真	10
④ 海外開教師・国際布教師物故者追悼法要およびU.S.A.天平山禅堂プロジェクト発足式 開催	SZI副会長 浅井 宣亮	12
▶『曹洞宗海外寺院史』進捗状況について	SZI事務局 菅原 研州	14
▶SZI express 会費納入者・賛助金納入者名簿・動静報告・編集後記・塔婆供養で植林支援のご案内		15
▶2012年度 総会・講演会のお知らせ		16